掲載日:2009年08月31日，面名:社会，記事ID:KIJ20090831_M001900120AD09001
(C)新潟日報社

総崩れ保守王国

県内自民 大敗 比例復活ならず

6候補おわび力なく

かつて「保守王国」を誇った本県の自民党が完全に瓦解した。30日投開票の衆院選で、自民は県政史上初めて、県内選挙区ですべての議席を失った。2005年の前回衆院選で議席を守った県連会長の近藤基彦さん（2区）も、父の代から3区の盟主として君臨してきた稲葉大和さんも今回は大差で落選。県内6小選挙区の自民候補はそろって支持者に深々と頭を下げた。郵政選挙で自民に追い風が吹いた前回衆院選とは打って変わり、有権者が自民に突き付けた強烈な「ノー」。全国でも総理、閣僚経験者が続々と落選。戦後政治史の主役だった自民に、有権者はそれぞれの1票で明確に退場を宣告した。

3区

「残念で何とおわびしてよいのやら…。誠に申し訳ありません」。稲葉大和さんは午後8時半すぎ、村上市の事務所で集まった支援者ら数十人を前に敗戦の弁を述べた。

地元で今なお慕われる故・稲葉修元法相を父に持ち、自身も自民の前県連会長を務めたベテラン。だが投票が終わったばかりの午後8時すぎに早くも相手候補の「当確」が報じられると、選対関係者からは「え、もう負けた？」「何だ、早すぎだぞ」と動揺した声が漏れた。

「原因は自分にあった。組織も弱体化していた。しかしここまで差が付くとは予想していなかった」とぼうぜんと話す稲葉さん。県内選挙区の自民完敗は、相次いだ総理の政権投げ出しや麻生降ろしなど、「党内部の抗争が尾を引いた」と語気を強めた。

父で元農相の故元次さんの写真を背に、目を潤ませて敗戦の弁を述べる近藤基彦さん＝30日午後9時すぎ、新潟市西蒲区巻甲の選挙事務所

早々に落選が決まり、ぼうぜんとした表情を浮かべながら選挙事務所を後にする稲葉大和さん＝30日午後9時ごろ、村上市塩町

2区

自民の県連会長、近藤基彦さんは午後9時すぎ、新潟市の事務所で「私の不徳の致すところです。それしかありません」と涙声でわび、約20人の支持者に土下座した。父の故・近藤元次元農相の代からの支持者は「自民支持者も離れているということなのか」と悔しさをにじませた。

自民が県内の小選挙区で全滅し、「大変申し訳なく思っている。私の選挙に余裕があり、お手伝いに行ければよかったが」と報道陣を前に沈痛な面持ち。会長の去就については「県連の役員の先生方とよく話をした」

「審判は謙虚に受け止めなければならないが、次の戦いを今から進めたい」。振り絞るように語ると、同9時ごろ、開票速報を待たずに事務所を後にした。

1区

「どこで何が起こったのかという思いだが、事実として受け止めるしかない」。吉田六左エ門さんは午後9時すぎ、新潟市の事務所で目を潤ませた。

「退路を断って臨む」と総力戦で挑んだ。結果は遠く及ばなかったが「政策がぶれていないことは近い将来証明されるはず。引き続きやっていきたい」と再起をにおわせた。

「もう一回やれ」と声援が飛ぶと、「どういう形か分からないが、リベンジはしたい」と力を込めた。

4区

前回衆院選に続き敗北を喫した新人の栗原洋志さんは午後9時すぎ、新潟市の事務所で、「厳しい選挙で、みなさんのご努力に応えることができませんでした」と支持者ら約30人を前にわびた。

敗因を聞かれると「自民党への有権者の期待は薄かった」と言葉を絞り出した。国政への挑戦を続けるかには「いまはノーコメント」と力なく話した。

5区

長岡市の長岡商工会議所で開票速報を見守った米山隆一さん。相手候補の当選が決まった後も比例復活に望みをつないだがかなわず、31日午前0時半前、「力のなさをおわびしたい。敗戦から学び、立ち直りたい」と支持者に頭を下げた。

報道陣に「政権交代の風も一因。県内では善戦した方だが、悔しい」と硬い表情で話した。

6区

高鳥修一さんは午後10時ごろ、上越市の事務所で「みなさんのご期待に添えず、結果が出せなかった」と敗戦の弁を述べ、結果について「これは津波だ」と評した。

比例復活の望みも断たれたが、「これまで訴えてきた郷土やふるさとへの思いがなくなったわけではない」と、今後に意欲を見せた。

「お通夜のようだ」 県連幹部ら言葉少な

険しい表情でテレビ画面を見詰める県連選対本部長の三富佳一さん（右）ら＝30日午後9時30分すぎ、新潟市中央区新光町の自民党県連本部

「本県の小選挙区全滅」「大物続々落選」―。〝悲報〟が次々に飛び込んだ新潟市の自民党県連本部。「お通夜のようだ」。テレビの速報番組を見詰める県議たちは表情をゆがめ、つぶやいた。

県連本部には午後9時すぎから県議や支持者ら約20人が集まった。「こっちに向かう途中で当確が出てしまった」とこぼすベテラン県議も。民主代表・鳩山由紀夫さんの会見がテレビで流れると、県連選対本部長の三富佳一さんは口元をきっと結んで画面をにらんだ。

三富さんは記者団に「全滅は想定外。厳粛に受け止める」と言葉少な。県議たちは「県議団は一致結束していこう」と励まし合うのが精いっぱいだった。

多くの実力派政治家を輩出してきた本県自民が初めて経験した屈辱。「後援会と党員獲得の地道な努力を怠ったつけだ」。ある県議は力なくつぶやいた。

長島さん2期目へ意欲

比例北陸信越 「現場主義貫きたい」

当選確実の報を受け支持者から渡された花束を抱える長島忠美さん＝30日午後8時すぎ、長岡市坂之上町2の長岡商工会議所

比例代表北陸信越ブロックの長島忠美さんは投票が終わった午後8時すぎ、早々に当確が報じられ、長岡市の長岡商工会議所の開票速報会場で「心から感謝申し上げたい気持ちでいっぱいです」と喜びを語った。ただ、隣にいる5区の米山隆一さんをはじめ、県内での自民の苦戦を前に、表情は厳しいまま。

県内小選挙区の自民全敗に「大変なことになった。きちんとやるべきことを見極めていきたい」と危機感をにじませた。

中越地震からの復興に尽力してきた実績を基に、「安心、安全なふるさとをつくるために、現場主義を貫きたい」と2期目の意気込みを語った。

「本当に厳しかった」 比例で当選 漆原さん

公明国対委員長を務める漆原良夫さんの比例代表北陸信越ブロックでの当選確実の報が流れたのは、31日午前1時前。開票状況を見守るために詰めていた東京都の党本部で、「何としても（ブロック）最後の1議席を守りたかった。本当に厳しい戦いだった」と安堵感を漂わせた。

しかし、有権者から厳しい審判を突き付けられ、公明幹部も小選挙区で相次ぎ落選する事態に表情は硬いまま。「これから党をどうしていくか、大きな仕事に取り組んでいかなければならない」と語った。

歴代首相 女性候補に苦戦

キングメーカー 森さん余裕なし 石川2区

ぎりぎりの接戦の末、自民党前職森喜朗氏(72)が石川2区で議席を守った。勢いに乗る民主党の新人田中美絵子氏(33)に激しく追い上げられた末の辛勝。連続14回当選でメンツは保ったものの、元首相の表情に「キングメーカー」の余裕は見られなかった。

選挙期間中、公の場を除きメディアのカメラを避け続けた森氏。30日も票の大半が開き大勢が固まった深夜になって、ようやく支援者が集まる小松市の陣営に姿を見せ「みなさんの頑張りに感謝します」と話した。

小選挙区では小差で敗れた田中氏は、比例復活が決まると、事務所に入り切らないほど集まった支持者を前に「有権者のみなさんに勇気のある選択をしていただいた」と満面の笑みで話した。

土壇場で持ち前の組織力を生かした森陣営。企業団体や町内会を細かく動員し、支持者をつなぎ留めた。

田中氏は、有権者一人一人と握手する地道な取り組みで支持を広げ、自民党批判の受け皿として保守票の一部も取り込み健闘した。

〝政権投げ出し〟 福田さん冷や汗 群馬4区

〝政権投げ出し〟で批判を浴びた自民党の前首相福田康夫氏(73)は群馬4区で民主党新人三宅雪子氏(44)との接戦を制したものの、支援者への第一声は「心配をかけて申し訳なかった」と、まさかの苦戦を強いられた反省の弁だった。

福田氏は午後10時半ごろ報道各社が当選確実を報じると高崎市の事務所に姿を見せ、約400人の支援者に笑顔で万歳三唱に応じた。

だが、一部報道で誤って「敗北」と伝えられるほど厳しい戦いぶりに「期待に応えられないと考えたこともあった」と落選の可能性が頭にあったことを吐露。

フジテレビ元記者の三宅氏が7月、民主党の小沢一郎代表代行の肝いりで擁立されると急速に支持を拡大。福田氏は父の故赳夫元首相から続く強固な地盤をわずか約1カ月で大幅に切り崩された。

首相辞任の際に記者へ「あなたとは違うんです」と開き直った強気さはすっかり影を潜め、選挙戦終盤では過去の選挙でほとんど使わなかった名前入りのたすきをかける姿が危機感を象徴した。

三宅氏も比例での復活当選が確実となり「胸を借りた前首相とさわやかに戦うことができた」と振り返った。

農相辞任赤城さん 強力地盤生かせず 茨城1区

自民党の赤城徳彦氏(50)も保守王国の茨城1区で敗北。「わたしの力不足。心からおわびする次第です」と話し、選挙戦の疲労をにじませながら支持者に深々と頭を下げた。自民党への逆風について問われるとひたすら有権者の声を厳粛に受け止め、糧にしていきたい」と話した。

赤城氏は農相などを歴任した祖父宗徳氏の後継として1990年に初当選。圧倒的な強さを誇ってきたが、約2年前には、政治資金の問題で農相辞任に追い込まれ、おわび行脚を続けてきた。

過去2回、5万票以上の差で敗れた民主党の福島伸享氏(39)は、自転車などで選挙区を回って支持を訴えた。選挙区内ほぼすべての市町に後援会事務所を設置するなど〝敵地〟を攻略した。

〝もうろう〟響き 中川さんが敗北 北海道11区

〝もうろう会見〟と西松建設の巨額献金事件で自民、民主ともにおわびと釈明に追われた北海道11区。「中川王国」とも呼ばれる強固な地盤を持つ自民党の前財務相中川昭一氏(56)だったが、最終的には民主党の前職石川知裕氏(36)に圧倒された。

「父親のときから46年間皆さまに支えていただいたが、こういう結果になったのは、ひとえにわたしの責任」。午後8時の投票締め切り直後、石川氏の当選確実が報じられ、約20分後に帯広市内の選挙事務所に現れた中川氏は目に涙を浮かべながら支援者にあいさつ。

2月のローマでの会見で財務相を辞任し、その後もおわび行脚に追われた。あいさつでも「おわび」を繰り返し、再起を誓っていた。

「あっけない」 中山さん神妙 宮崎1区

「あまりにあっけない。私の努力不足で申し訳ない」。宮崎1区で無所属で出馬した前国土交通相の中山成彬氏(66)は落選を受け、神妙な面持ちで支持者に頭を下げた。

午後8時すぎ、テレビで対立候補の当選確実が伝えられると、事務所に集まった約50人の支持者から「えー」と落胆の声が上がった。「支援の輪が広がっていくところまで行くのではと思ったが、及ばなかった」。選挙戦を振り返る中山氏の言葉を、うなだれた様子で聞く支持者。

昨年10月の衆院選不出馬表明を「息子は豹変（ひょうへん）するという言葉もある」と撤回し、今年7月に立候補を表明。民主など3党から推薦を受けた無所属の川村秀三郎氏(60)に及ばなかった。